

—写真訪問—

# MICOS (マイコス)

日本気象協会北海道本部

## 1 MICOSとは

MICOS(Meteorologic Information Comprehensive Organization System)は、気象庁のアデスやアメダス、レーダー、他機関の特殊データ、そして、気象協会独自観測所のマメダスなどのデータを受信・蓄積し、編集加工を施したMICOSプロダクトをユーザーにリアルタイムに提供するオンラインシステムである。システムの形態は分散処理型で、



通信処理部、データベース処理部、数値計算等プロダクト処理部などに分かれ、基幹部分は2重化システムになっている。

MICOSセンターは、札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、福岡の各本部に設置されており、各センター間は、高速デジタル回線で結ばれている。さらに、各センターの配下にはサブセンターが配置されて全国的なネットワーク(MICOS/WAN)となっている。

そのネットワークは、ユーザーに配信される気象データが流れるだけでなく、メールの送受信や運用情報・研究開発情報の共有のためにも使われている。従って、通信手順も、従来からのBSC、HDL C、パケットに加えて、TCP/IPと多種類に渡り、利用目的に合わせて最適な通信手順が使われている。また、WWWサーバーが複数稼動してイントラネットの構築も進んでおり、インターネットにはMICOS/Webのホームページが公開されている。

## 2 MICOS情報の利用法

気象データの種類は多く、気象庁のデータやMICOSプロダクトなどを合わせると数百種類になる。また、技術の日進月歩により、データの新規追加、変更、廃止が行われることがあり、ユーザーが直接気象データの編集・加工及び表示をすることは、ユーザーにとってソフト開発などの負荷が大きくなる場合がある。このため、気象協会では、ユーザーの利便性を考えて汎用的なフォーマットのMICOSプロダクトを作成しており、さらに、プロダクトを情報としてすぐ利用出来るように、各種ソフトを取

り揃えたMICOS端末を用意している。MICOS端末は、これらのソフトにより、一般的な情報から、防災、道路、農業、レジャーなど産業別に幅広く利用可能になっている。

さて、今まで、MICOS端末は、豊富なソフトと共に全国の数多くのユーザーに利用されてきたが、OSがMS-DOSである端末は、時代の流れにより主役の座から下り、世代交代の時期が来たといえる。気象協会では、ユーザーニーズに応えるべく、WindowsNT/95の次世代端末であるMICOS/Winを開発した。

### 3 MICOS/Win

MICOS/Winは、WindowsNT/95というグラフィカルユーザーインターフェース、マルチタスク、容易なLAN化など高度な機能を備えたOSを利用したパソコン端末である。MICOS/Winは、気象データのフルカラー表示、複数データ表示、動画処理、地震・津波等緊急報の音声ガイダンスなどイベント処理と、いろいろな機能を有している。また、ソフトはオブジェクト化されており、機能追加、新規データの追加・変更、バージョンアップが比較的容易に行えるように設計されている。

図1は、アメダス・マメダスの表示例である。立体地図上にアメダスとマメダスが同時に表示されている。また、地点の時系列表示、マップ表示と帳票表示、しきい値設定などが出来る。

図2は、降水量メッシュの表示と、主要道路網の重ね合わせ表示である。他に、鉄道網や市町村境界表示、任意拡大表示などが出来る。

図3は、波浪メッシュ、全球ひまわり、天気図の複数表示である。

### 4 これからのMICOS

現在、情報の伝達において、視覚に訴えるビジュアルコミュニケーションが、益々重要になってきている。大量の数値データを扱う気象において、データのビジュアル化は最も有効な表現方法であり、パソコンの高性能化により比較的容易に2次元、3次元表示が出来るようになってきた。

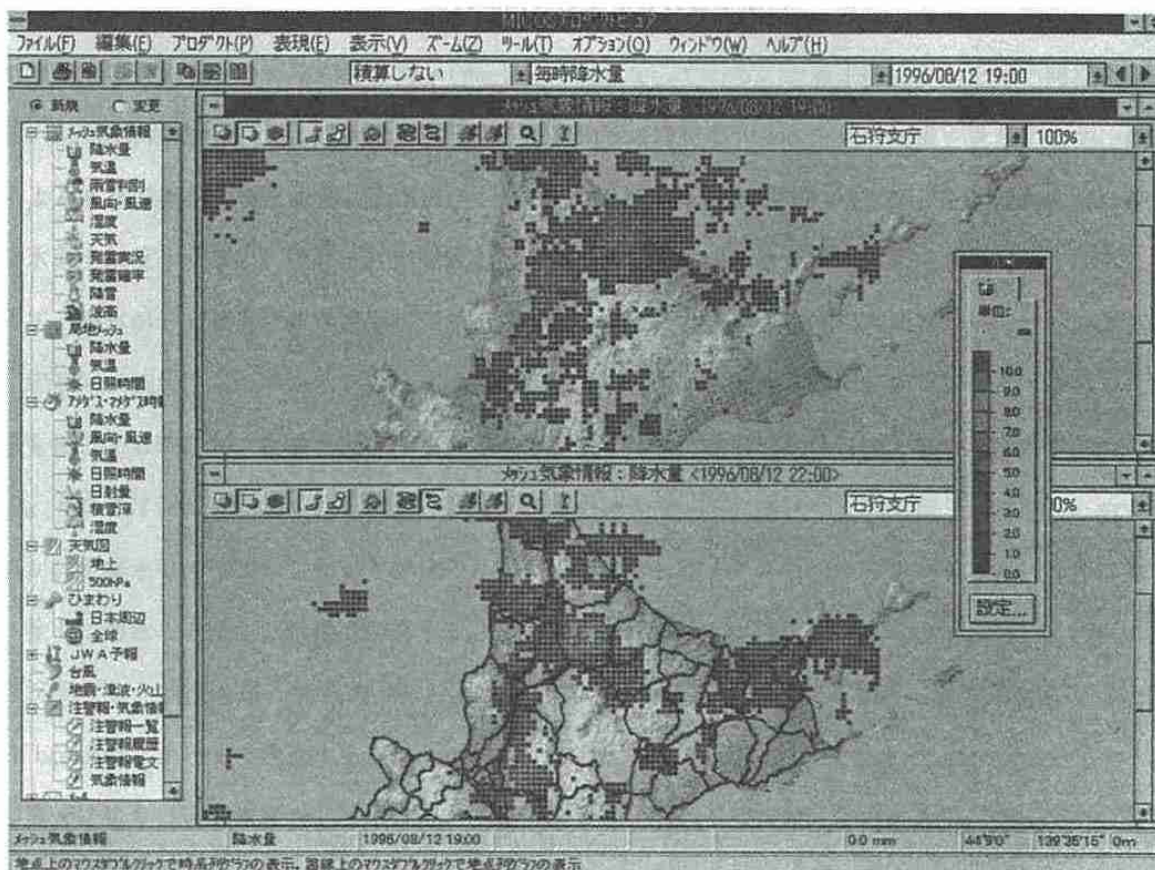
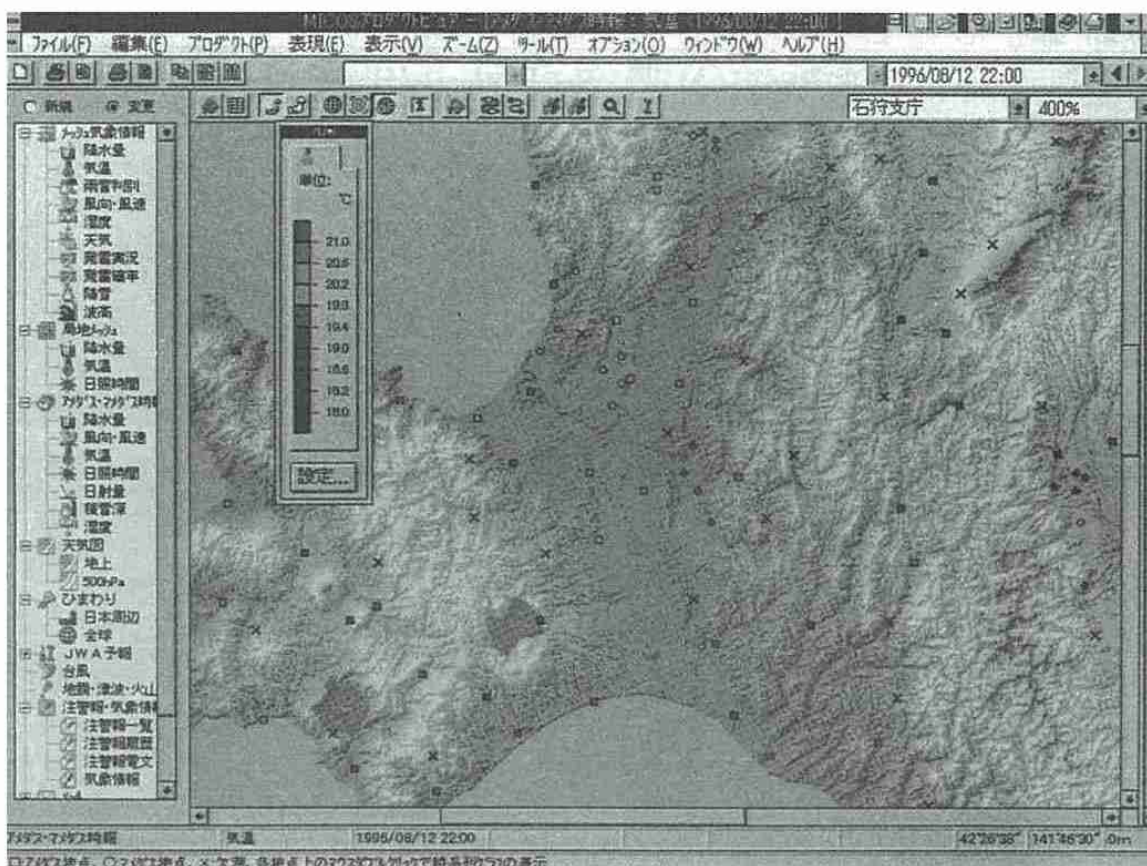
MICOSは、スーパーコンピュータによる局地予報など各種オリジナル情報の作成、それらの情報のリアルタイム提供をさらに充実させ、いろいろなメディアを利用した情報の伝達、その中でも、MICOS/Winによるビジュアル化を一層進めて行く予定である。

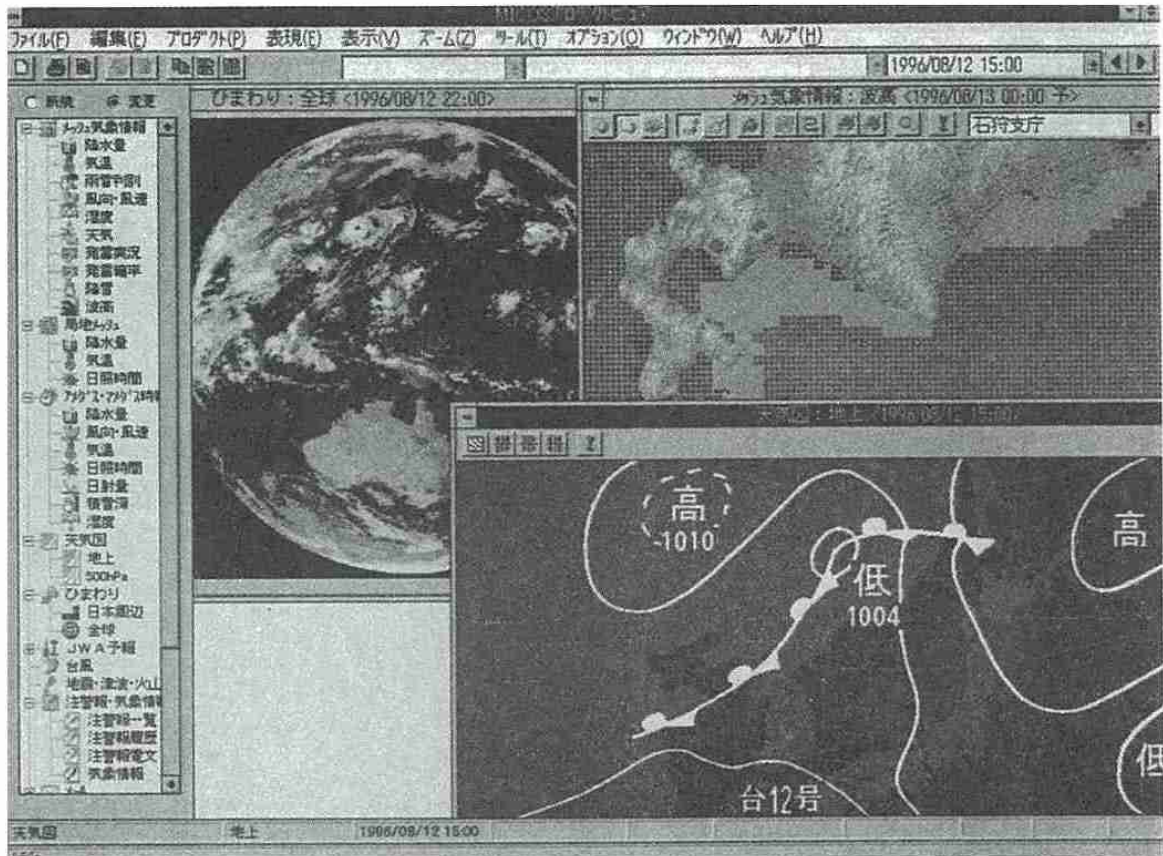
064 札幌市中央区北4条西23丁目 (財)日本気象協会北海道本部

気象情報部情報管理課 網蔵 真

TEL(011)622-2243 FAX(011)622-8398







MICOSによる表示面の例